



共同参画

特集1 / スペシャルインタビュー

(株)テレワークマネジメント代表取締役
田澤由利氏にお話を伺いました

特集2 / 女性に対する暴力をなくす運動



ELIMINATING
VIOLENCE AGAINST WOMEN

「若年女性を取り巻く現状～コロナ禍で孤独深める女性たち～」

2009年より、10代20代の生きづらさを抱えている女性たちの支援をしています。

活動の拠点は東京の渋谷で、相談室は神奈川県横浜にあります。スタッフは30人ほどで、相談は全国から届き、LINE、メール、電話、オンライン面談、直接会って話を聞かせてもらうなどの相談を受けています。必要に応じて弁護士等と連携しながら、同行支援や一時的な保護、自立準備のための中長期保護などを行っています。声を聴いて、女の子たちの現状を伝えて、悩みを一緒に考えて、相談者を必要な支援者へと繋ぐ「動く相談窓口」として活動しています。

「同居する恋人から暴力を受けているが、逃げる所がない」、「コロナで仕事がなくなって、所持金がわずか」、「お父さんから身体を触られる。嫌だけど怖くて断れない。死にたい」、こうした相談が毎日のように寄せられています。相談件数は月に約1000件、新型コロナ感染拡大後は2割ほど相談が増えました。

経済的に困窮している子に、性行為と交換で男が金を貸し付ける「ひととき融資」や経済的に余裕のある男性と一緒に時間を過ごし対価として金銭を得る活動の「パパ活」などにより、望まない妊娠をした、または不安を感じているという相談もありました。危険なアルバイトで稼ぐよう強要する親が、実はコロナ禍でお金に困っていたなど、子どもが間接的に影響を受けている場合も多く、貧困や暴力など、元々あった女性を取り巻く問題がコロナ禍で深刻化、顕在化しています。

じっくり話を聞くと、自分の生きづらさや状況をうまく伝えることができなくて、誰に助けを求めたらいいのかも分からないまま孤立する子たちの姿がありました。毎日生きるのが精いっぱいな彼女たちは、どんな支援を受けられるのか、情報をキャッチする余裕すらありません。そして情報を与えられても自ら相談窓口に出向いたり、申請をすることが困難な女性たちもいます。既存の支援だけでは不十分のため、こちらから声をかけて、手を差し伸べて伴走支援をしていきたいと思っています。



橘ジュン

Jun Tachibana

特定非営利活動法人
BONDプロジェクト 代表

"Kyodo-sankaku"

共同参画

11

November 2021
Number 150

目次

Contents



今月号の表紙

優しい印象を感じさせる女性のイラストにパープルリボンを添えて今号の特集となる女性に対する暴力をなくす運動を表現しました。

Special Feature

特集 1 Page.2

スペシャルインタビュー

(株)テレワークマネジメント代表取締役
田澤由利氏にお話を伺いました

特集 2 Page.5

女性に対する暴力をなくす運動

Topics

行政施策トピックス 1 Page.7

2021 APEC 女性と経済フォーラム (WEF)

行政施策トピックス 2 Page.9

「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」参加者の取組

行政施策トピックス 3 Page.10

「第15回キッズデザイン賞」男女共同参画担当大臣賞について

行政施策トピックス 4 Page.11

“おとう飯”始めようキャンペーン 食欲の秋レシピ特集

News & Information

ニュース & インフォメーション Page.12

NWEC フォーラム 2021 オンライン開催！

ほか

公式Facebook



男女共同参画局 Facebook

<https://www.facebook.com/danjokyodosankaku>



公式ホームページ



内閣府男女共同参画局

Gender Equality Bureau Cabinet Office

<https://www.gender.go.jp>



Special
Feature

1

(株)テレワークマネジメント代表取締役 田澤由利氏にお話を伺いました

内閣府男女共同参画局総務課

田澤 由利氏

(株) テレワークマネジメント
代表取締役

林 伴子氏

男女共同参画局
局長

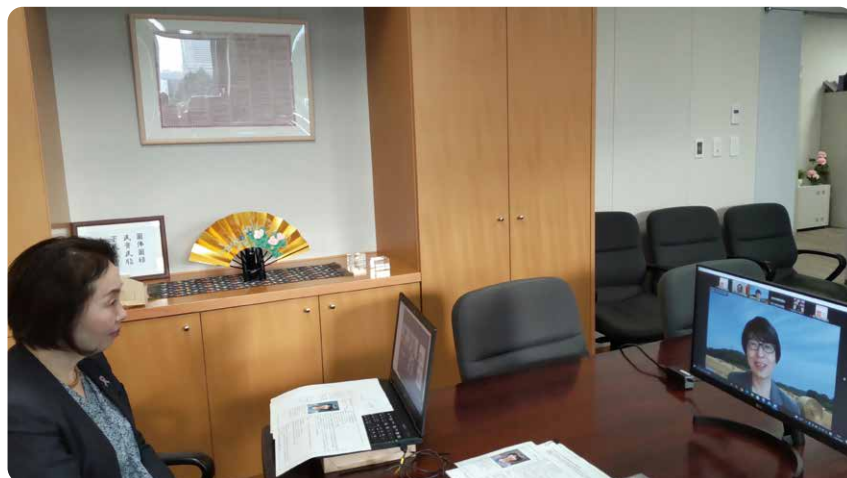
毎日会社に行けなくなるから働けない？

林局長：田澤さんは御自身でテレワークの会社を立ち上げられて、今や100人を超えるスタッフが全国各地にいて田澤さんの下、テレワークで仕事をされていると伺っています。会社の概要と立上げに当たって御苦労されたことや、そもそもなぜこういった会社を立ち上げようと思われたのかをお聞かせください。

田澤氏：私は二つ会社を持っておりまして、一つが100人超の在宅で働くスタッフがいる会社（注：株式会社ワイズスタッフ）と、もう一つがテレワークを導入する企業にコンサルティングをする会社（注：株式会社テレワークマネジメント）で、最初に起業する時とステップアップする時の二つに分けてお話をさせていただきます。

私は大学を卒業後、電機メーカーに就職しました。そこで一生会社員として働こうと思っていたのですが、残念なことに結婚・出産・夫の転勤で辞めなくてはいけなくなりました。当時は男女雇用機会均等法が施行される頃だったので、制度的には働ける状況でした。ところが、夫の転勤が重なり辞めなくてはいけなくなりました。会社も辞めるなどと言って下さるし、私も辞めたくないと思っていたのですが、結局、退職することになりました。「両思いなのに、何でやめなきゃいけないのだろう」。自分なりの答えは、「毎日会社に行けなくなるから」でした。毎日会社に通わなくても働き続けられるような社会になれば、子育て中でも、あるいは夫の転勤で地方に住んでも自分らしく生きられるのではないかと思ったのが最初の大きなきっかけです。

その後フリーライターとして、家で働くということに挑戦し



始めました。家にいてパソコンで原稿を書いてメールで編集部に送るという仕事をしていると、どこにいても働けるということがわかってきて、そういった働き方がもっと広がらないといけないと思いました。ふと周りを見渡してみると、同じように家で働きたい女性がたくさんいたのです。子育てや親の介護をしている女性たちから「私も家で働きたい」と私のところに相談がたくさん来て、世の中こんなにたくさんの女性が働きたいけど働けない状態にあるのだということがわかりました。だったら家で働くという働き方をもっと多くの人ができるようにしたいと思ったのが、最初の会社（注：株式会社ワイズスタッフ）を作るきっかけになりました。

林局長：私も田澤さんと同じ均等法世代なので今のお話とてもよくわかります。あの頃の雰囲気だと夫が転勤になると辞めてついて行く方が多かったと思います。でもそういった中、ついて行った先で仕事を続けようとか、会社を立ち上げようとかされたところが素晴らしいと思います。

田澤氏：ありがとうございます。そこにもきっかけがありまして、自分が働きたいとか世の中がもっと働けるようになったらいいなという思いだけだったので、会社を作るところまでは最初考えていなかったのです。ところが、こういう働き方をもっとできなければだめだとインターネットで言っていたら、ある男性から「家で働くことは確かにすばらしいと思うけれども、御主人がいてご飯を食べさせてくれているからそういう新しいことに挑戦できるのでしょう」と言われたのです。私は自分が挑戦する話をしているのに、どうして夫の給料の話をされるのだろうと、もやもやしました。こんな風に思われたくない。悩んだ結果、収支が明確な会社を作ることに至ったのです。

テレワークは夢物語？

林局長：大変興味深いエピソードですね。会社を作ろうとなった時に、例えば銀行から融資を受けたり、色々な手続きをする面で御苦労はなかったのでしょうか。

田澤氏：最初の会社は比較的小さくスタートできたのですが、10年くらい経って、自分が在宅で働ける会社を頑張って作っても世の中は変わらないなと気がついたのです。起業から10年経った当時、ワイズスタッフで、在宅で働いているスタッフは150人位でした。もう10年頑張っても300人。これでは世の中は変わりません。世の中を変えるには、企業を変えなくてはいけない。企業が社員を在宅でも働けるようにすれば、多くの人の働き方が変わると考え、二つめの会社を立ち上げました。それがテレワークマネジメントです。これは本当に大変で、先ほど御指摘いただいたような苦労がありました。最初は企業に無料でいいのでテレワークの講演をさせてくださいということをやっていたので、どんどんお金がなくなっていました。銀行にお金を借りに行き、計画を出し、「これからテレワークという働き方は重要で企業のニーズも出てくるから借金は返せます」という説明をしても、「テレワークなんて夢物語。事業ではありません」と言われたのです。とても悔しい思いをしました。そこから軌道に乗るまで10年かかりましたが、国もテレワークを推進していただいていますし、世の中が少しずつ変わって来ました。残念ながら、たくさん儲けるということとはできませんが、自分がやりたかったことにだんだん近づいてきているのがこの10年間です。



林局長：今まさに、コロナでテレワークのコンサルティングは引っ張りだこではないかと思いますが、いかがですか。

田澤氏：引っ張りだこでしたらとてもうれしいのですが、ニーズは確実に増えています。皆さん色々取り組んでいただいています、試行錯誤の時だと思っていて、ここからが本番だと感じます。長年やってきた経験やノウハウや運用、ツール類を今こそ大きく生かせると思っています。

林局長：テレワークがこれだけ広がってきて、物の考え方が変わってきているというアンケートの調査結果もあります。田澤さんがされてきたことは先見の明があったのではないかと思います。

田澤氏：ありがとうございます。

男性も女性も変わらない働き方

林局長：田澤さん御自身の働き方を柔軟に変えながら、キャリアを追求されてきたことは、これからの女性にとって大切なロールモデルになると思います。今後女性が活躍していく上で、あるいは女性が活躍しやすい社会を作っていく上でどういったことが大事だとお考えになりますか。

田澤氏：女性が活躍できる社会づくりというのは色々な要素があると思います。私が全てを語ることはできませんが、私自身は、女性のために何かをすることか、女性だけを優遇するというのではなく、男性も女性も関係なく能力を発揮できる場づくりが一番重要だと考えています。今私がやっているテレワークというのはそこに大きく貢献できると思います。朝早く会社に行って、夜遅くまで働ける人しか評価されない社会だったのが、テレワークであれば子育て中でも家にいながらフルタイムで働くことができます。男性も女性も変わらない働き方、同様に働ける基盤が重要だと考えています。私はたま

たま女性として働きやすいということでテレワークを選んだけれども、テレワークが男性も含めてあたりまえの働き方になることが結果として女性が働きやすい社会になると思います。ただ、女性は出産という男性とは異なるシーンがあるので、そういったことも埋められるようなフェアな環境・制度が社会にできることが重要だと思います。

思い、信念、想像力をもって進んでほしい

林局長：田澤さんのお話を伺って、世の中は変わるし変えられるということを実感します。

田澤氏：想像するということがとても大事だと思います。できないと思った瞬間に思考が止まってしまうじゃないですか。どうやったらできるかということをずっと想像し、挑戦し続けることが大事だと思います。

林局長：最後に女性で起業している方や志す方にアドバイスををお願いします。

田澤氏：20年、30年のレンジでお話してきましたが、あの時代だったからこれだけかかったということはあると思います。今ならもっとスピーディーに、アイデアや技術で私が10年かかったことが1年でできるかもしれません。そこに必要なのは、思いと信念と想像力だと私は思っています。正直、起業は楽ではないですが、大変なりに得られるもの、自分がやりたいことができる喜びは最大だと思います。起業を目指している方あるいは起業して御苦労されている方は信念を持って、想像力を持って、新しいテクノロジーを使って、前に進んでください。きっと楽しい世界、自分が目指した世界がもっと近くなると思います。ぜひ頑張ってください。

林局長：思いと信念と想像力は、本当に大事ですね。本日は貴重なお話をありがとうございました。



田澤 由利氏

1962年 奈良県出身
1985年 上智大学卒業後、シャープ株式会社に入社
1991年 フリーライターとして独立
1998年 有限会社ワイズスタッフ設立
2005年 株式会社ワイズスタッフに組織変更
2008年 株式会社テレワークマネジメント設立

女性に対する暴力をなくす運動

内閣府男女共同参画局男女間暴力対策課

毎年11月12日～25日は「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。今年のテーマは「性暴力を、なくそう」です。女性に対する暴力の根絶に向けた政府の取組を御紹介します。

■女性に対する暴力は許されない

配偶者等からの暴力、性犯罪・性暴力、ストーカ行為、売買春、人身取引、セクシュアルハラスメントなどは、重大な人権侵害であり、決して許されない行為です。

政府は、女性に対する暴力の被害者支援を行うとともに、暴力を容認しない社会環境を整備するための教育や啓発活動に力を入れています。

■女性に対する暴力をなくす運動

政府は、女性に対する暴力の予防と根絶に向けて、地方公共団体、女性団体及びその他の関係団体との連携・協力の下、毎年11月12日～25日までの2週間を「女性に対する暴力をなくす運動」(平成13年男女共同参画推進本部決定)として様々な活動を実施しています。

内閣府では毎年ポスターやリーフレットを作成し、国の関係機関や地方公共団体、全国の図書館等に配布しています。また、鉄道会社の駅構内でもポスターを掲示するなど広く周知しています。

令和2年6月に取りまとめた「性犯罪・性暴力対策の強化の方針」において、令和2年度から4年度までの3年間を性犯罪・性暴力対策の「集中強化期間」としており、今年のテーマは昨年に引き続き、「性暴力を、なくそう」とし、「傷つけた方が悪い。性暴力に言い訳は通らない。」というメッセージを発出するとともに、被害にあった場合の相談窓口の周知を図ります。

また、今年も漫画家の西原理恵子さんに、「被害者は悪く

ない。悪いのは加害者」「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター(以下、ワンストップ支援センター)と性暴力に関するSNS相談Cure time(キュアタイム)の紹介」をテーマにした漫画を描いていただきました。使用申請すれば、広報・啓発活動に御活用いただけます。

運動の初日である11

月12日には、全国のタワーやランドマークなどが運動のイメージカラーであるパープルにライトアップされます。

この他、運動期間中に、地方公共団体等による展示、広報、イベント等も催されます。各地の行事予定はホームページに掲載されます。ぜひ御覧ください。



令和3年のポスター

「女性に対する暴力をなくす運動」の
詳細はこちらから御覧ください



https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/no_violence_act/index.html



© 西原理恵子



© 西原理恵子



© 西原理恵子



© 西原理恵子

■ 傷つけた方が悪い。性暴力に言い訳は通らない。

内閣府が令和2年度に実施した「男女間における暴力に関する調査」(20歳以上の男女5,000人を対象)では、無理やり性交等をされた経験がある人は24人に1人、女性の14人に1人が被害にあった経験があり、約6割がどこにも相談していません(男性は100人に1人が被害を経験し、相談しなかった人の割合は約7割)。一方、被害の相談先としては、約4人に1人が「友人・知人」に相談しています。自分の大切な人から被害について相談された時は、まずは、その不安を受けとめ、被害にあった人が「自分にも落ち度があったのでは」と自分を責めるようなことがあれば、「あなたは何も悪くない。あなたに落ち度も責任もない」と繰り返し伝えてください。

性暴力は、被害者の尊厳を著しく傷つける重大な人権侵害であり、決して許されるものではありません。「悪いのは加害者であり、被害者は決して悪くない」「相手の望まない性的な行為は性暴力」という認識を社会全体に広げていくことが何よりも重要です。

■ 一人で悩まず、専門機関へ相談を！

妊娠の心配がある場合や薬物が使われた疑いがある場合には、早急に検査や処置をする必要があります。全国共通短縮番号#8891(はやくワンストップ)で最寄りのワンストップ支援センターにつながります。ワンストップ支援センターは、被害にあった直後から、医療的支援や法的支援、心理的支援など総合的な支援を可能な限り1カ所で提供することで、被害者の心身の負担を軽減し、その健康回復を図ることを目的とした専門の相談支援機関です。

10月1日からは、夜間休日には対応していないワンストップ支援センターの運営時間外に、性暴力被害者からの相談を受け付ける「性暴力被害者のための夜間休日コールセンター」を設置しました。10月1日から19県、11月1日からはさらに7つの道府県が利用を開始しています。

また、SNS相談Cure time(キュアタイム)でもチャットで相談ができます。プライバシーは守られますので、安心して相談してください。

性犯罪・性暴力被害者のための ワンストップ支援センター一覧



https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/seibouryoku/consult.html



性暴力に関するSNS相談 Cure time (キュアタイム)



<https://curetime.jp/>



性暴力被害者のための夜間休日コールセンター、始めました！

10月から利用開始する県と11月から利用開始する道府県があります。

10月1日から利用開始
(19県)

青森県、宮城県、秋田県、山形県、茨城県、群馬県、新潟県、山梨県、三重県、兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、香川県、高知県、佐賀県、長崎県、宮崎県、鹿児島県

11月1日から利用開始
(7道府県)

北海道、岩手県、福島県、栃木県、京都府、奈良県、和歌山県

24時間365日運営しているワンストップ支援センターでは、引き続き夜間休日にも相談支援を行います。

埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、滋賀県、大阪府、広島県、山口県、徳島県、愛媛県、福岡県、熊本県、大分県、沖縄県 (21都府県)

2021 APEC 女性と経済フォーラム(WEF)

内閣府男女共同参画局総務課

2021 APEC 女性と経済フォーラム(WEF)について

令和3年9月24日、APEC「女性と経済フォーラム2021」がオンラインで開催されました。ニュージーランドが議長を務め、丸川女性活躍担当大臣・内閣府特命担当大臣(男女共同参画)がビデオメッセージにて登壇しました。今回の会合では、新型コロナウイルス感染症(以下「新型コロナ」)の影響を乗り越える女性の経済的エンパワメント(女性が経済的に自立する力)について議論が行われ、「2021 APEC 女性と経済フォーラム声明」が採択されました。

主な議事

■歓迎の挨拶

■基調講演

(ヘレン・クラーク 元ニュージーランド首相・前国連開発計画総裁)

■APEC Healthy Women Healthy Economics Research Prizeの表彰式

■ハイレベル政策対話

■2021 APEC 女性と経済フォーラム声明の採択

■閉会の挨拶

丸川大臣は、ハイレベル政策対話にビデオメッセージで登壇し、日本政府としてジェンダー平等の実現と女性の経済的エンパワメントの促進に向けて全力で取り組んでいくことを発信しました。



ビデオメッセージで登壇する丸川大臣

ハイレベル政策対話

本年は各エコノミーの代表者が、新型コロナの影響を乗り越える女性の経済的エンパワメントの取組を共有しました。丸川大臣の発言ポイントは、以下のとおりです。

- ポストコロナの経済・産業構造を見据えた女性のデジタル人材育成の取組を推進すること。
- 人生のあらゆる場面におけるエンパワメントが必要であること。
- 現状や課題を客観的に把握するため、ジェンダー統計の活用が重要であること。

各エコノミーからも同様に、女性の経済的自立のための資金援助、DV対策や女性の医療や健康への支援、STEM分野のスキルアップや女性起業家の支援、男女間の賃金格差への取組、ジェンダー予算の策定など、様々な取組が紹介されました。



議論を行う各エコノミー代表者

2021 APEC 女性と経済フォーラム声明

会合では、ジェンダー平等と女性の経済分野での活躍を促進するための施策を取りまとめた「2021 APEC女性と経済フォーラム声明」が、APECの男女共同参画担当閣僚によって採択されました。同声明では、ジェンダー平等と女性の経済的エンパワーメントにより、イノベーションによる生産性向上など、大きな利益を得られることを強調しています。

ポイントは次のとおりです。

- 新型コロナの拡大は、APEC地域全体のジェンダー平等と女性の経済的エンパワーメントに著しくマイナスの影響を与えるリスクがある。
- 「プトラジャヤ・ビジョン2040」や、「女性と包括的成長のためのラ・セレナ・ロードマップ(2019年～2030年)」の実施にコミットする。
- 官民間を含むAPEC域内での効果的なパートナーシップ、APECの諸フォーラムとの間の協力を進める。

また、声明では以下の具体的行動についても合意されました。

- 男女別データの収集、分析等により、知見や好事例を共有すること。
- 男女間の賃金格差と職業差別の是正、家事や育児、介護等の無償労働の平等な分担等の構造的な改革にコミットすること。
- 男女均等なデジタルスキルの訓練へのアクセス、STEM、金融に関する知識等へのアクセスを促進すること。
- デジタル化が加速する中で女性・女兒が主導的な役割を担えるよう、固定的性別役割分担意識や教育等における差別を払拭すること。
- 女性・女兒に対する暴力、虐待、ハラスメントの撲滅にコミットすること。

※プトラジャヤ・ビジョン2040

次の3つの経済的推進力を追求し、2040年までに、開かれた、ダイナミックで、強靱かつ平和なアジア太平洋共同体とすることを実現する。①貿易・投資②イノベーションとデジタル化③力強く、均衡ある、安全で、持続可能かつ包摂的な成長。

※「女性と包括的成長のためのラ・セレナ・ロードマップ(2019年～2030年)」

5つの分野(資本へのアクセス、労働参加、意思決定層への参画、教育・訓練、データの収集・分析)で、以下4つの目標が掲げられている。

- 雇用へのアクセス、雇用機会、雇用条件における性別に基づく差別を禁止するための法令、政策、規制を整備する。
- 男女が平等に資金調達や融資を受けられるよう、差別のない法令、政策、規制を整備する。
- アジア太平洋地域のSTEM分野の高等教育卒業生及び研究開発職におけるジェンダーバランスを改善する。
- アジア太平洋地域で指導的立場にある人のジェンダーバランスを改善し、男女格差を解消する。



APEC女性と経済フォーラムの様子(写真: APEC公式ウェブサイトより)

会合の詳細や閣僚声明の全文は、
下記に掲載しています。



[https://www.gender.go.jp/
international/int_kaigi/int_apec/
wef2021.html](https://www.gender.go.jp/international/int_kaigi/int_apec/wef2021.html)



「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」参加者の取組

「男性リーダーの会」には、女性活躍の推進にコミットする企業経営者等や知事・市町村長の約270名が参加しています。そのうち、2名の男性リーダーの取組を紹介します。(氏名五十音順)

内閣府男女共同参画局総務課

イノベーション企業文化の醸成に向けて

古出 眞敏

アフラック生命保険株式会社
代表取締役社長



当社は社員一人ひとりが、既存の概念に捉われず、変化を先取りしながら新たな価値を創造していく「イノベーション企業文化の醸成」を目指し、ダイバーシティと働き方改革「アフラック Work SMART」を両輪で推進しています。

これらの重要性を米国の持ち株会社のトップを含む経営陣から社員に直接伝える機会として「Aflac Global Diversity Conference」を定期的に開催しており、オンラインで開催した2020年はこれまで参加が難しかった地方勤務の社員も含め約550名が参加して大いに盛り上がりしました。

女性社員のキャリア形成意欲や能力開発のため、社長をはじめとする役員や他部門の部長にキャリア相談ができるメンタリングや役員へのプレゼンテーションも実施しています。

これらの取組の結果、女性活躍推進のKPIである「2020年末時点で指導的立場*1に占める女性社員割合を30%以上」は2019年に1年前倒しで達成し、2021年には32.4%に伸展しました。もう1つのKPIである「2025年にライン長*2ポストに占める女性割合を30%、マイルストーンとして2020年に20%」はマイルストーンを達成しました。

ダイバーシティ推進によって、アジャイル型の業務運営やDX推進など会社の変革への取組を加速させる、ドライバーになっていることを実感しています。



「Aflac Global Diversity Conference 2020」の様子

- *1. 課長代理以上の役職
- *2. 直属の部下を持つ管理職

「消滅可能性都市」から「SDGs未来都市」へ

高野 之夫

豊島区 区長

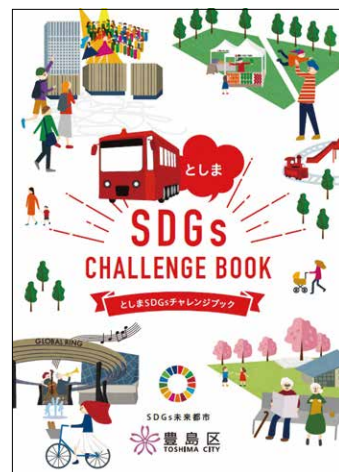


豊島区は、2014年、日本創生会議により「消滅可能性都市」の指摘を受け、すぐに対策を講じるため、「女性にやさしいまちづくり」に向けた施策に取り組んできました。女性の意見をお聞きするための会議体を発足させ、民間から女性管理職も登用しました。さらに、区民の皆さんや企業の力もお借りして様々な事業を進めることで、2018年に「持続発展都市」へと変貌を遂げました。

女性からいただいた意見を反映し「公園から街が変わる」をコンセプトに池袋駅周辺の4つの公園整備も進め、この公園を回遊する真っ赤な環境に優しい電気バス「イケバス」を運行し、お子さんにも大人気です。

区は文化を基軸とした誰もが主役になれる「国際アート・カルチャー都市」を進めてきましたが、2020年に東京で初となる「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」のダブル選定という快挙を成し遂げました。

ジェンダー平等の実現は、SDGsのすべての目標とターゲットの進展に貢献するものとされています。2022年は区制90周年、男女平等推進センター開設30周年にあたることから、さらに取組を加速させ、誰一人取り残さない「SDGs未来都市」の実現を目指してまいります。



区民の皆さんとSDGsに取り組んでいます。

行動宣言

輝く女性の活躍を加速する
男性リーダーの会

「男性リーダーの会」について、
詳しくはこちら

URL

https://www.gender.go.jp/policy/sokushin/male_leaders/index.html



「第15回キッズデザイン賞」男女共同参画担当大臣賞について

内閣府男女共同参画局総務課

キッズデザイン賞

特定非営利活動法人キッズデザイン協議会が主催する「キッズデザイン賞」は、子どもの安全・安心と健やかな成長発達につながる生活環境の創出と、子どもを産み育てやすい生活環境の実現を目指したデザインの顕彰制度です。

2007年（平成19年）から始まったこの賞は今年で15回目を迎えました。受賞作品には「キッズデザインマーク」を使用することが認められ、その成果を広く社会にアピールすることができます。

受賞作品の中から、最優秀賞として「内閣総理大臣賞」1点、各部門優秀賞として「経済産業大臣賞」4点、「少子化対策担当大臣賞」2点、「消費者担当大臣賞」1点、そして「男女共同参画担当大臣賞」1点が授与されます。

男女共同参画担当大臣賞

第9回（2015年）に設けられた男女共同参画担当大臣賞は今年で7回目になります。「子どもたちを産み育てやすいデザイン部門」の中で、産前産後や子育て期の男女が、子どもを産み育てながら社会参加しやすい環境づくりを促す取組の中で、最も優れた製品、サービス、空間、活動、研究に贈られます。

今年の受賞デザインの紹介

第15回キッズデザイン賞では、「子どもたちを産み育てやすいデザイン部門」への応募は123点あり、その中から70点が受賞しました。9月29日（水）に六本木ヒルズにおいて行われた記者発表・表彰式では、株式会社ライフケアパートナーズ・日本生命保険互助会社による「子育てみらいコンシェルジュ」が男女共同参画担当大臣賞を受賞したことが発表され、賞状授与が行われました。



受賞した株式会社ライフケアパートナーズ代表取締役の矢野美佳氏と山本正巳キッズデザイン協議会会長

子育てみらいコンシェルジュ

企業・パパママ従業員と企業主導型保育所をつないで保活を支える、Webマッチングサービスです。利用企業の保活中の従業員が、登録された全国の企業主導型保育所の情報や空き状況をオンラインで直接検索し、気に入った保育所を見学・入園を申し込むことができるものです。

サービスの全体像



審査委員会から、「コロナ禍の影響もあり、働き方の多様化が急激に進むなかで、フレキシブルな保育環境を提供する企業主導型保育園を相互活用することで、仕事と子育ての両立支援やダイバーシティ推進につなげている好事例である。」「父親や男性管理職向けの各種コンテンツを提供し、サービスの男性従業員の利用促進につなげている。」「男性育休の推進を先導してきた企業が、本作品の活動を通じて利用企業の良質な取組を紹介するコンテンツなどを共有し、企業主導による男性の育児参画を後押しする仕組みになっている。」という点で評価されました。



表彰式会場での男女共同参画担当大臣賞の展示

キッズデザイン賞の
詳細についてはこちら

URL <https://kidsdesignaward.jp/>



“おとう飯”始めようキャンペーン 食欲の秋レシピ特集

内閣府男女共同参画局総務課

内閣府男女共同参画局は、平成29年度より、「“おとう飯”始めようキャンペーン」を実施してきました。

これまで料理をしていない、料理をしていたことはあるもののやめてしまった、という男性の料理参画の第一歩として、簡単に手間を掛けず、多少見た目が悪くても美味しい料理を「おとう飯」と命名し、料理を作るハードルを下げ、男性の家

事参画が広がることを目指しています。

これまで「日本全国のおとう飯」と「季節のおとう飯」で御紹介してきたレシピの中から、食欲の秋にぴったりのレシピをピックアップしてみました。いずれのレシピも電子レンジで調理ができるものなので、ぜひ作ってみてくださいね。

レンジで簡単！ サーモンフライ



材 料

- サーモン：2切れ
- パン粉：1カップ
- パセリのみじん切り：小さじ2（あれば）
- サラダ油：大さじ1
- 塩胡椒：少々
- 料理酒：小さじ1
- マヨネーズ：大さじ1

作 り 方

- ① サーモンは水気をキッチンペーパーなどでしっかり取ってから3等分に切り、全体に料理酒小さじ1をふりかけます。
- ② 耐熱容器にパン粉とサラダ油を入れてよく混ぜ合わせ、フタをしないで電子レンジ600ワットで2分加熱します。
- ③ パン粉の真ん中に焦げ目ができるので、焦げ目の茶色が広がるようにまんべんなく混ぜ、塩胡椒適量を加えて更に混ぜ合わせます。
※パセリのみじん切りがあれば、ここで混ぜます。
- ④ サーモン全体にマヨネーズを薄く塗り、3の容器の中に入れてパン粉をまぶします。
- ⑤ 耐熱皿の上にペーパータオルを敷き、その上にサーモンを並べて電子レンジ600ワットで1分30秒加熱します。
- ⑥ 一旦、サーモンをひっくり返して、更に電子レンジで1分30秒加熱したら完成です。

※加熱が終わったらキッチンペーパーなどで油を吸わせるとパリッと出来上がります。

※電子レンジの出力に合わせて分数は調節してください。

さつまいもとリンゴのサラダ



材 料

- サツマイモ：1本（中くらいの大きさの物）
- リンゴ：1/2個
- レーズン：50グラム

ソース

- ヨーグルト：80グラム（プレーン加糖）
- マヨネーズ：大さじ2
- ハチミツ：小さじ1
- くるみ：適量を砕いて（あれば）

作 り 方

- ① サツマイモをよく洗い、水で濡らします。
- ② 少し絞ったキッチンペーパーを巻きつけ、その上からラップをきっちりまいてレンジ600ワットで4分～4分半加熱し、冷めるまで放置します。
- ③ リンゴを1センチ角くらいにカットします。
- ④ ソースを全て混ぜ合わせます。
- ⑤ サツマイモが冷めたらリンゴ同様に1センチ角にカットします。
- ⑥ サツマイモ、リンゴ、レーズンを混ぜ合わせ、最後にソースをかけて混ぜ合わせて完成です。

“おとう飯”始めようキャンペーンの詳細はこちら

URL

<https://www.gender.go.jp/public/otouhan/index.html>



News

01

NWECフォーラム2021 オンライン開催！

文部科学省

国立女性教育会館(NWEC)では、年に1度の「男女共同参画推進フォーラム」を、新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインで開催します。テーマはSDGs第5目標と同じ「ジェンダー平等を実現しよう」。最近よく聞くようになったジェンダー平等ですが、具体的に実現していくための方策をともに考えてみませんか。

基調講演には、中満 泉氏(国連事務次長・軍縮問題担当上級代表)をお迎えし、私たちが今とるべきアクションについて伺います。鼎談では、多様な人々との対話を通して変革の波を広げている、白

波瀬佐和子氏(東京大学大学院人文社会系研究科 教授)、田瀬和夫氏(SDGパートナーズ(有) CEO、内閣府男女共同参画推進連携会議 議員)、谷口 歩実氏(＃みんなの生理 共同代表)に、世代を超えて大いに語り合ってください。また、全国から集まった46団体がワークショップやパネル展示を行い、男女共同参画推進を目的とした日頃の活動成果を発表します。

特設サイト上では「NWECグローバルセミナー」「女性活躍推進セミナー」も同時開催。皆様の御参加をお待ちしています！

詳細は、こちらを御覧ください。

URL

https://www.nwec.jp/event/training/g_forum2021.html



令和3年度「男女共同参画推進フォーラム」
参加費 無料
オンライン開催

NWECフォーラム2021

ジェンダー平等を実現しよう

年に1度のNWEC「男女共同参画推進フォーラム」。男女共同参画推進に関わる人々が、地域・組織・分野を超えて集い、自らの実践や研究の成果を分かち合います。今年度は「NWEC グローバルセミナー」「女性活躍推進セミナー」も同時開催。ぜひこの機会に、ジェンダー平等推進に向けた活動成果をともに考えていきましょう。皆様のご参加をお待ちしています！
※新型コロナウイルス感染症予防のため、(観客席)と(観覧席)の2つのエリアに分けて開催します。

開催期間
令和3年 12月1日(水) 9:00 ▶ 21日(火) 17:00
プレオープン 令和3年11月24日(金) 9:00~

参加方法
開催期間中にNWECホームページ
https://www.nwec.jp/event/training/g_forum2021.html から
「男女共同参画推進フォーラム(特設サイト)」にアクセス！
※男女共同参画推進フォーラム(特設サイト)の開設は、事務局が完了します。

12月2日(木) 中満 泉
10:00~11:00
ライブ配信
【録画配信】12月4日(土)~

危機の時代のジェンダー平等

独立行政法人 国立女性教育会館

令和3年度「男女共同参画推進フォーラム」
NWECフォーラム2021
ジェンダー平等を実現しよう

12月11日(土) 13:30~15:00
ライブ配信
【録画配信】12月14日(火)~

社会を変える—ジェンダー平等の「壁」を乗り越えるために必要なこと
最近、ジェンダーに関する話題をよく聞くようになりました。この壁を一緒に乗り越えるためには、多様なジェンダー平等推進者たちが集い、自分たちの実践や研究の成果を分かち合います。今年度は「NWEC グローバルセミナー」「女性活躍推進セミナー」も同時開催。ぜひこの機会に、ジェンダー平等推進に向けた活動成果をともに考えていきましょう。皆様のご参加をお待ちしています！
※新型コロナウイルス感染症予防のため、(観客席)と(観覧席)の2つのエリアに分けて開催します。

白瀬 佐和子
東京大学大学院人文社会系研究科 教授

田瀬 和夫
SDGパートナーズ(有) CEO
内閣府男女共同参画推進連携会議 議員

谷口 歩実
＃みんなの生理 共同代表

全国各地の団体がワークショップやパネル展示を実施。男女共同参画推進、ダイバーシティ及び女性の活躍推進を目的とした日頃の活動成果を発表します。
※ワークショップ開催場所は、(特設サイト)でチェック！

NWECフォーラム特設サイト内で同時開催！
【NWECグローバルセミナー】
テーマ「ジェンダーに基づく暴力と危機—コロナ危機からの「より良い復興」に向けて」
【女性活躍推進セミナー】
テーマ「ワーク・ライフ・コロナ時代の働き方戦略—テレワークから広がる可能性」

スケジュール
プレオープン 11月24日(金)~ 開演 12月11日(土)
フォーラム開演 12月11日(土) 13:30~15:00 NWECグローバルセミナー 12月11日(土) 15:00~16:00
出展プログラム 12月11日(土) 16:00~17:00 パネルディスカッション 12月16日(木) 10:00~11:00
出展プログラム 12月2日(木) 10:00~11:00 女性活躍推進セミナー 12月10日(水) (予定)

主催・お問い合わせ
独立行政法人 国立女性教育会館 TEL 0493-62-6724 FAX 0493-62-6725
〒100-8285 東京都千代田区千代田1-1-1
TEL 0493-62-6724 FAX 0493-62-6725
<https://www.nwec.jp>

News

02

「NWECグローバルセミナー」開催について

文部科学省

国立女性教育会館(NWEC)では、「ジェンダーに基づく暴力との闘い—コロナ危機からの「より良い復興」に向けて」をテーマとして、令和3年度「NWECグローバルセミナー」をオンラインにて開催します。

基調講演では、コロナ禍で脆弱な立場に置かれた女性や少女への支援について、アメリカとオーストラリアの専門家から報告いただきます。

パネルディスカッションでは、女性や少女に対する暴力をなくすために、国際的な協調を深めながらどのように取り組んでいくことができるか、日本人有識者が議論を交わします。

また、海外の取組として、オランダからは「ラップ」、ルワンダからは「ドラム演奏」を動画で紹介します。

基調講演と海外の取組紹介は、12月1日(水)~12月21日(火)に令和3年度男女共同参画推進フォーラム(特設サイト)グローバルセミナーのページにて配信、パネルディスカッションは12月16日(木)に同ページ内でzoomライブ配信にて開催します。

詳細は、こちらを御覧ください。

URL

<https://www.nwec.jp/global/seminar/n2ih1m0000000um5.html>





Info

01 令和3年度「学校における男女共同参画研修」実施報告

文部科学省

国立女性教育会館(NWEC)では、7月29日(木)～8月31日(火)に教育委員会や教育センター等の職員と初等中等教育諸学校(特別支援学校を含む)の管理職・教職員を対象にオンライン研修を開催しました。

この研修は、自身の持つ「無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)」や固定的な性別役割分担意識に気付くとともに、学校現場に存在する男女共同参画についての課題を把握すること、また教職員自身のキャリア形成や女性管理職の育成、多様な児童生徒への対応について男女共同参画の視点から理解を深め、解決に向けた方策を探ることを趣旨とし、全国から241名が参加しました。

研修では、オンデマンド配信による講義とライブ配信によるパネルディスカッション、ケース動画を使用したワークやフォローアップ・ミーティング等、多彩なプログラムを通じて、新たな気付きを得たり、学びを深めたりできるようにしました。

研修全体の満足度も大変高く、参加者からは「学校現場におけるアンコンシャス・バイアスについて多くの気付きを得た」「ジェンダー教育を進めることの重要性、そのための具体的な内容について例示され、自分のこととして計画し進めていかなければならないと考えさせられた」等の感想が寄せられました。



詳細は、こちらを御覧ください。



https://www.nwec.jp/event/training/g_kyoin2021.html



田澤由利さんのインタビューに同席させていただきました。印象的だったのは「男性も働きやすい社会が結果として女性も働きやすい社会になる」という言葉です。結婚・出産→退職→夫の転勤→起業を経て、テレワークを推進してこられた田澤さんから何うと、非常に説得力がある言葉だと思いました。また、お話を伺っていて、「均等法世代」の先輩方が一生懸命道を切り開いて下さったからこそ、下の世代が様々な権利を享受できているのだということも感じることができました。私たちの世代が将来「何世代」と呼ばれることになるのか想像もつきませんが、次世代に何かを伝えられるように微力ながら頑張りたいと思いました。

【秋が好き 編集部員1】

Kyodo-Sankaku

月刊総合情報誌
「共同参画」11月号



<https://www.gender.go.jp>



<https://www.facebook.com/danjokyodosankaku>

第150号
編集・発行

2021年11月10日発行
内閣府
〒100-8914
東京都千代田区
永田町1-6-1
内閣府男女共同参画局
総務課

電話 03-5253-2111 (代)
印刷 株式会社アイネット
表紙デザイン 株式会社マーグ

2人きりで食事したよね?

ほら、お互いお酒飲んでたし...

家に来てくれたよね?

イヤって言わなかったよね?

そんな服装してるしさあ...

ボディータッチしてきたよね?

今、付き合ってるじゃん!

あなたの望まない性的な
行為は、**性暴力**です。
迷わずに下記までご相談を。

傷つけた方が悪い。性暴力に
言い訳は通らない。

11月12日～25日は「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。

性犯罪・性暴力で悩んでいる方へ、一人で悩まず、相談してください。

電話で
相談

内閣府 性犯罪・性暴力被害者のための
ワンストップ支援センター

はやくワンストップ

#8891

警察庁
性犯罪被害
相談電話

ハートさん

#8103

SNSで
相談

内閣府
性暴力に関するSNS相談
「Cure time」
(キュアタイム)



内閣府 性暴力対策 検索